

82 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (65歳・内科)

糖尿病合併症の 重篤な病状(皮膚潰瘍)に悩む。 ～現在の臨床治療は機能しているのでしょうか?～

数年前のある日、某グループホームの患者さん(79歳の女性、糖尿病・高血圧)の往診



依頼がありました。患者さんは、片足つま先に痺れ感があり、皮膚潰瘍と仙骨、臀部に褥瘡がみられました。そして、今後の人生をあきらめかけていたのです。場合によっては、足の切断の必要があり、専門医と連携することになりました。

糖尿病の初期段階は苦痛がなく、知らず知らずのうちに悪化してしまいます。そして、気がついて診断を受けても、放置すれば重篤となり、痛みや痺れなどの症状が出てきます。しかし、同じ糖尿病でも、食事や運動療法で、一生病気と仲良くすごせるタイプと、重篤な合併症(網膜症で失明、腎症で人工

透析、神経症で片足切断)に悩むタイプとがあります。それは、生まれつきの体質(DNAの仕草)に食生活や運動不足が関係すると言われています。さらに、血液が粘くなる(高血液粘度群)ことと、体のリズムの変調(日内ホルモンリズムの狂い)が原因とされていますが、十分な臨床研究がなされていないのが現状です。

私たちはこう思っています。「この分野の治療体系構築のため、新しい視点で挑み、速やかに結果を出してこそ、患者さんの苦痛をやわらげることになるのでしょう。そして、私たち臨床医こそ、今、行動すべきなのです」と。

健康長寿研究会“命の絆” レポート001

現代ほど、人類の生存権が脅かされている時代は類を見ないでしょう。

第一に地球温暖化、第二に戦争、第三に飢餓が問題視されていることは周知の事実です。

今回、私たちが目指しているのは、第四の治療学・予防医学(未病)のパラダイムシフトです。すなわち、真の健康を科学するアクションを起こすのです。

当然のことながら、その場には官僚主義やヒエラルキーは全く存在しません。全世界の医療が融合し、病に立ち向かう時代はすでに来ているのです。

健康長寿研究会

- ◎発足/平成27年4月1日
- ◎会長/橋本満義
- ◎事務局長/松本賢治
- ◎目的・活動/ 松山から世界へ、そして世界から松山へ、学術的な裏付けのある健康長寿を提言する。

「お医者さんが来てくれる」

24時間・365日態勢で対応(松山市全域)

私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 21名

(常勤6名、非常勤15名)

内科・外科専門医 18名
(国立がんセンター勤務歴有3名)

精神科専門医 2名
麻酔科専門医 1名
(ペインクリニック科)

末期がん治療(緩和ケア) 相談室開設!

Hyper Blood Viscosity (高血液粘度群)を科学する 臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設

「地方創生健康長寿研究会」平成27年4月1日発足

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>